

## 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生の確保の見通し

#### 1) 心理学部臨床心理学科の入学定員設定の考え方

心理学部臨床心理学科の入学定員は120名で設定した。

本学は、「既設大学等の状況」欄に記載の通り、広領域学科である人文学科(160名)、マネジメント学科(180名)以外の学科については、80名から120名の間で入学定員を設定している。これは、人材養成の目的を比較的絞った学科にあつては、教育の質の保証と学習成果をあげうる教育の実現、きめ細やかな学生指導等の観点から、1学科の規模としては100名前後が適切であると考え、設定しているものである。

心理学部臨床心理学科の入学定員120名は、改組の母体である文学部臨床心理学科の入学定員と同じである。これまで文学部臨床心理学科として120名定員を設定してきたが、質の保証と学習成果を挙げる教育を実現してきた。心理学部臨床心理学科へ改組した後も、120名という定員設定は適正なものであると判断する。

#### 2) 心理学部臨床心理学科の定員充足の見込み

本学の志願者の出身地を見ると、関東地区、特に南関東の東京と埼玉県が大多数占めている。2017年度入試では、東京都と埼玉県を併せて志願者全体の72.5%であった。この傾向は近年特に高くなっており、学部在籍者の出身地を見ると、やはり東京都と埼玉県で合計70.4%となっている。したがって、本学が志願者確保ならびに入学定員充足のために動向を把握すべき地域は、関東地区、とりわけ東京都と埼玉県である。

この両地域の18歳人口の動向を見る。リクルートのwebサイトに公開されている「18歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向(南関東版)」によれば、2016年から2027年にかけての18歳人口を、東京都は3,673人3.5%の減、埼玉県は3,803人5.8%の減と予測している。全国的な18歳人口の動向については12.4%の減と予測しており、東京・埼玉地区の減少はかなり小幅なものと言えるだろう。東京・埼玉地区は、志願者マーケットとして今後も期待できる。

次に、地区別の大学志願者状況を見る。豊島継男事務所の調査「私立大学 地区別志願者増減表(男女別・女子大含む)」によると、2016年度入試から2017年度入試にかけての女子の動向は、東京107.3、南関東104.0の増加となっている。いずれも100を大きく超え、安定した志願者マーケットである。

心理学分野の志願者動向を見る。日本私立学校振興・共済事業団が作成した「主な学部別の志願者・入学者動向(大学)」によれば、心理学部の志願者は、2017年度は2016年度に対して15.1%の増である。また、豊島継男事務所の調査「私立大学 学科系統別志願者増減表(男女別・女子大含む)」によると、心理系学科の女子志願者は、同様に9.4%の増である。さらに、リクルート作成の「〈心理学系マーケット〉首都圏エリア入試の傾向」によれば、首都圏エリアでは、心理・人間系の志願者が昨年比14.2%の大きな伸びとなっている。学部レベル、学科レベル、地域、ともに心理系の志願者が大きく増加しており、今後も同程度の水準が想定される。

本学の2012年度から2017年度までの入学定員比率を見る。「2012~2017年度入試 入学試験結果(学部学科別)」にある通り、この6年間の平均で大学全体では110.3%である。また、心理学部臨床心理学科の基礎学科である文学部臨床心理学科では、同様に6年間の平均で112.2%である。いずれも安定した数値であり、入学定員を充足している。

競合校の状況を見る。競合校として、心理系の学部・学科を持つ、文教大学、大妻女子大学、昭和女子大学、大正大学、立正大学、日本大学、東洋大学の7大学を選定した。これら

の大学は、本学のキャンパスがある埼玉県と東京都に立地する大学であり、かつ本学の受験生が多く併願する大学でもある。競合校として妥当な対象であろう。これらの大学の心理系学部9学科の志願者状況は、2学科を除き他は昨年比で大きく伸びている。平均を取ってみると125.5%である。これらの競合する大学の心理系学科の志願者増加動向は、本学が位置するエリアでの心理系志願者マーケットの安定性を示すものである。

以上、本学の志願者出身地域を確認した上で、当該地域の18歳人口予測、女子の大学志願状況、心理学分野の志願状況、本学の既設学科の入学定員充足状況、他大学の心理系学科の志願状況を確認した。いずれの面においても、志願者確保および入学定員充足の可能性を明確に示している。かくして、心理学部臨床心理学科の定員充足は十分な見込みがあると判断する。

### 3) 定員充足の根拠となる客観的データの概要

#### ①本学への志願者ならびに入学者・在籍者の出身地

2017年度入試における志願者の出身地(資料1)を見ると、全志願者3,111人のうち関東地区の出身者が2,851人と、91.6%を占めている。とりわけ、東京都1,292人41.5%、埼玉県965人31.0%であり、この2地区で合計72.5%と、本学志願者の7割以上を占めている。

また、本学の2017年8月現在の学部在籍者の出身地(資料2)を見ると、関東地区で3,727人、全在籍者3,962人のうち94.1パーセントを占めている。とりわけ、東京都1,105人、埼玉県1,686人で、この2地区で合計70.4%である。

志願者・在籍者に見るこうした状況は近年の大きな傾向であり、今後も同様に推移するものと想定される。すなわち、志願者確保ならびに入学定員充足のために本学が注力すべき地域は、関東地区、とりわけ本学がキャンパスを置く東京都と埼玉県であることが明らかである。

#### ②南関東エリアの18歳人口の予測

リクルートのwebサイト「リクルート進学総研」に公開されているレポート「18歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向(南関東版)」(資料3)には、2016年から2027年にかけての南関東地区(埼玉・千葉・東京・神奈川)の18歳人口予測が示されている。

それによると、南関東全体では、307,864人→292,869人と、4.9%減と予測している。特に、本学の重要エリアである東京都と埼玉県について見ると、東京は105,971人→102,298人、埼玉は65,774人→61,971人となっている。東京は3,673人3.5%の減、埼玉は3,803人5.8%の減少予測である。

他方、全国の予測をみると、1,198,290人→1,050,107人で、12.4%の減となっている。これに比べると、東京・埼玉地区の減少はかなり小幅なものであり、志願者マーケットとしては今後も期待できるものである。

#### ③地区別志願者動向

豊島継男事務所の調査「私立大学 地区別志願者増減表(男女別・女子大含む)」(資料4)によると、2016年度入試から2017年度入試にかけて女子の動向は次の通りとなっている。

・東京	480,271 (17年度)	447,715 (16年度)	107.3 (増指数)
・南関東	150,327 (17年度)	144,544 (16年度)	104.0 (増指数)

このデータによれば、本学がキャンパスを置く東京と、埼玉を含む南関東は、志願者の増加指数が100を大きく超えている。安定した志願者マーケットである。

#### ④心理学分野の志願者動向

豊島継男事務所の調査「私立大学 学部系統別志願者増減表（男女別・女子大含む）」（資料5）によると、「文・人文・教養・心理」系学部の女子志願者は、2016年度198,730人、2017年度208,500人であり、9,770人4.9%の増となっている。

また、日本私立学校振興・共済事業団が作成したデータ「主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」（『平成29年度 私立大学・短期大学等 入試志願動向』資料6）によれば、心理学部の志願者は、平成28年度15,051人、平成29年度17,324人であり、2,273人15.1%の増である。

学科レベルで見ると、豊島継男事務所の調査「私立大学 学科系統別志願者増減表（男女別・女子大含む）」（資料7）によると、心理系学科の女子志願者は、2016年度35,441人、2017年度38,788人であり、3,347人9.4%の増となっている。

さらに、リクルート作成の「〈心理学系マーケット〉首都圏エリア入試の傾向（学問系統別志願者数）」（資料8）によれば、首都圏エリアについて、文系学問系統別で見ると、心理・人間系の志願者が2017年度8,490人で、昨年比14.2%の大きな伸びとなっている。

学部レベル、学科レベルともに、心理系の志願者が大きく増加している。今後も同程度の水準で志願者数を維持できると判断して良いであろう。

#### ⑤既設学部の入学者確保の状況

本学の2012年度から2017年度まで、各年度の志願者数、受験者数、合格者数、手続者数、入学者数、入学定員比率等は、「2012～2017年度入試 入学試験結果（学部学科別）」（資料9）にある通りである。この6年間について、大学全体の入学定員比率を平均すると110.3%となる。2016年度は入学辞退者が予測を上回ったために、わずか5名とは言え入学定員を割り込んでしまったが、その他の年度は確実に入学定員を充足している。

さらに、心理学部臨床心理学科の基礎学科である文学部臨床心理学科の志願者数その他の状況は同データに記載されているとおりである。大学全体と同様に、この6年間の入学定員比率を平均すると112.2%となる。2014年度は合格者数を厳しく絞り込みすぎたために、わずか4名とは言え入学定員を割り込んでしまったが、その他の年度は十分に入学定員を充足している。

#### ⑥競合校における志願者状況

リクルート作成の「〈心理学系マーケット〉首都圏エリア入試の傾向（心理系学科志願者数）」（資料10）から、競合校7大学9学科の心理系学科の志願者動向（2016→2017）を挙げてみると以下の通りである。

文教大学	人間科学部	臨床心理学科	982人→974人	▲8人0.8%減
		心理学科	1,105人→1,195人	90人8.1%増
大妻女子大学	人間関係学部	人間関係学科	社会・臨床心理学専攻	
			324人→313人	▲11人3.4%減
昭和女子大学	人間社会学部	心理学科	921人→1,061人	140人15.2%増
大正大学	心理社会学部	臨床心理学科	756人(人間学部 臨床心理学科)→1,048人	292人38.6%増
東洋大学	社会学部	社会心理学科	1,951人→2,407人	456人23.4%増
日本大学	文理学部	心理学科	1,383人→2,474人	1,091人78.9%増
立正大学	心理学部	臨床心理学科	1,215人→1,349人	134人11.0%増
		対人・社会心理学科	1,010人→1,288人	278人27.5%増

2つの学科でわずかな志願者数の減少が見られるが、他の学科はいずれも大きな増加となっている。大正大学も含め、9学科の平均を取ってみると、125.5%の増となった。これらの文字通り競合する大学の心理系学科の志願者増加動向は、本学が位置するエリアでの心理系志願者マーケットの安定性を示すものである。

#### 4) コミュニティデザイン学科(定員充足率0.7倍未満)の定員未充足の原因分析と定員設定の合理性

観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科の入学者数は、「2012～2017 年度入試入学試験結果(学部学科別)」(資料9)にある通り、80名の入学定員に対して、2015年度20名、2016年度45名、2017年度77名である。3年間の入学定員比率を平均すると59.2%となり、70%を割り込む結果となった。

その原因として、最も大きな要因と考えているのは、コミュニティデザインという新しい学びを受験生に十分伝えきれなかったことである。学科開設前において、高校の教員に対しては、大学説明会や高校訪問の機会をとらえて説明することで理解を図ることができたが、高校生に対しては言葉による説明中心ではやはり不十分であったと言わざるを得ない。

しかし、学科が発足し、教員が教育研究を行い、学生が学び始めることで、さまざまに具体的な姿を直接受験生に見てもらえるようになった。その効果は大きく、コミュニティデザインの学びも、徐々にではあるが、着実に浸透し始めている。発足年度からの、20→45→77という入学者数の顕著な伸びがそのことを示している。2017年度は定員確保まであと3名というところまで来ている。

コミュニティデザイン学科の重要な学びの一つはフィールドワークであるが、多様な地域でのフィールドワークを学生たちがそれぞれに分担しつつ学び、コミュニティデザインの多様性を理解していくことが大切である。その意味で、コミュニティデザイン学科の教育実現には80名の入学定員設定は妥当なものであると考える。

#### 5) 学生納付金の設定の考え方

本学園の財源は、その大部分を生徒・学生の納付金と公的補助金とに依存するが、厳しい経済状況や競争的環境の下にあつて、学園経営は一段と厳しさを増している。

こうした中で、平成27年度入学生から学費の改定を行った。その内容は、入学金20万円(10万円の減額)、授業料74万2千円(据え置き。ただし、年度ごとの漸増方式を1万円から2万円に増額)、施設設備費26万円(年度ごと。各年度7万円の増額)の設定である。これにより、初年度納入金は120万2千円、4年間の総額では432万8千円となった。これは、それまでの総額413万6千円に対して4.6%の増となるが、学園経営上やむを得ない増額である。

この設定金額により3年を経過したが、平成30年度においても変更の予定はない。

また、資料11に見るとおり、競合校の初年度納入金と比較してみれば、本学は低い方から数えて3番目に位置している。仮に平均を取ってみれば126万9千円余となり、平均額を下回っている。本学の学納金は妥当なものである。

#### (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

##### 1) 一般的な取組

##### ①オープンキャンパス

主として高校生・保護者を対象に年間12回開催している。学部・学科、入学試験に関する説明の他、相談コーナーの設置やキャンパスツアー等を行っている。

##### 【効果】

前年度と比較して参加者が増加しており(資料12)、より多くの高校生に広報できている。また、教職員に加えて、本学学生にも相談対応や学内案内などを担ってもらっており、受験生には評判の良いものとなっている。

## ②進学相談会

業者企画による各大学合同の進学相談会や、高校企画による高校側で開催される進学相談会に参加し、本学の説明を行っている。両企画とも毎年 50 回程度参加している。

### 【効果】

相談者の人数は横ばいであるが、遠隔地に居住する受験生の相談の機会になっているほか、接触者の母集団形成に役立っている。

## ③高校訪問

専任の教職員が担当する入試アドバイザーが高校を訪問して広報活動を行っている。

高校の所在地別では、首都圏を中心に、信越地域、北海道・東北地域、東海地域で、訪問高校数は約 600 校である。訪問回数は重点校（約 270 校）は年 2 回、その他の高校は年 1 回である。

### 【効果】

高校の進路指導教員に本学の説明を直接できる機会であり、また、高校側からの本学への要望なども直接伺うこともできる、大変有効で重要な取組となっている。

## ④キャンパス見学者・授業体験希望者の受け入れ

個別のキャンパス見学希望に加え、高校からの要請に応じて団体でのキャンパス見学を受け入れている。また、今年から平日に行われる通常授業を受講できる「授業体験企画」を実施している。

### 【効果】

団体でのキャンパス見学は年 6~7 校、授業体験企画参加者は 10 名程度であるが、本学の教育や環境をより深く知ってもらう良い機会となっている。

## ⑤在学生による母校訪問企画

在学生に呼びかけて、近況報告として出身高校への訪問を行っている。毎年、80 人ほどの学生が 70 校程度の高校に訪問している。

### 【効果】

学生が元気で大学生活を送っていることの母校への報告であるが、学生目線による大学の紹介として有効なものになっている。

## 2) コミュニティデザイン学科（定員充足率 0.7 倍未満）の学科の取組

上記の「一般的な取組」に加えて、以下の取組を行なっている。

### ①専任教員による高校教員向け講演

高校教員を対象とした大学説明会においてコミュニティデザイン学科の専任教員による講演を行い、当該学科の特徴的な授業（海外での実践的活動）の紹介を行った。

#### 【効果】

具体的な取組事例を紹介することにより、高校教員に当該学科に関する理解を深めてもらうことができた。

### ②在学生によるオープンキャンパスでの学科紹介

オープンキャンパスにおいて、在学生による学科紹介、在学生と受験生との個別懇談のブースの設置など、学生目線による学科紹介・相談を行った。

#### 【効果】

寛いだ雰囲気の中で、具体的な授業の様子を高校生に伝えることができた。実際の在学生による対応は、具体的なイメージと安心感を与える上で大きな効果があった。

### 3) 新学部関係の取組

#### ①オープンキャンパスにおける新学部の紹介

毎回のオープンキャンパスにおいて新学部の説明会を実施し、個別相談にも対応している。

#### ②高校訪問

新学部専用のパンフレット（資料 13）を作成し、高校訪問の際に利活用することで、重点的に新学部の説明を行っている。

#### ③新学部サイト

新学部に関するサイト（<http://www.atomi.ac.jp/univ/faculty/special/shinri/>）を立ち上げ、随時内容を更新して最新の情報を公開している。

#### ④新学部広報

雑誌、新聞、web等、さまざまなメディアを駆使して、新学部に絞った特別広報を展開している。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### 1) 心理学部の人材の養成に関する目的

心理学部は、人の心についての広く深い科学的な知見と技術をもとに、人々の健康的な人生に寄与し、人間関係の理解とスキルを活かした豊かな組織と社会づくりに貢献する人材の養成を目的としている。

#### 2) 臨床心理学科の人材の養成に関する目的

臨床心理学科は、臨床心理学を中心とする広く深い学識を備え、人々の心身の健康の保持増進に寄与し、現代社会の抱える様々な心の問題や課題の解決に貢献できる人材の養成を目的としている。

その上で、本学科の学生には以下の能力を修得させる。

①実践科学としての臨床心理学に関する知識と能力。

②人間尊重の精神、高い倫理観を持って、多領域、多職種の人々と協働する能力。

③臨床心理学に関する知識と能力を活用して、柔軟に、現実的に問題を解決する力。

④自己理解、他者理解を深め、家庭、職場、社会など、それぞれ生きる場において、よりよく生きる力。

⑤公認心理師等の資格取得を目指す場合に必要な知識と能力。

こうした能力を修得し、人材需要の社会的動向を踏まえ、より具体的には以下のような女性を育成する。

①心理専門職（プロフェッショナル）を目指す女性

②心理学の知識・スキルを職業（ワーク）に活かすことのできる女性

③心理学的・臨床心理学的素養を人生（ライフ）に活かすことのできる女性

### (2) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

今日、様々な分野で以下のようにいろいろな問題が生じており、心理専門職や心理学的素養を持つ人材が求められている。

教育の分野では、文部科学省による「平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(確定値)」によれば、「いじめの認知件数」(資料14)は小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の合計で平成26年度188,072件、平成27年度225,132件、「不登校児童生徒数」(資料15)は小学校、中学校の合計で平成26年度122,897人、平成27年度125,991人、「暴力行為発生件数」(資料16)は小学校、中学校、高等学校の合計で平成26年度54,246件、平成27年度56,806件、「児童生徒の自殺」(資料17)は小学生、中学生、高校生の合計で平成26年度232人、平成27年度215人である。平成26年度から27年度にかけて、自殺の数は減少しているが、いじめ、不登校、暴力行為とも、大幅な数値の増加が見て取れる。

こうした状況の反映であろう、「都道府県・指定都市における小学生、中学生及び高校生に関する教育相談件数」を見ると、平成26年度146,861件(資料18)、平成27年度172,650件(資料19)と、25,789件、17.6%も増加している。

このような数値の増加は、まさに心理職の社会的必要性を明確に示すものであり、人材養成の必然性が明らかに示されていると言えよう。

また、文部科学省のお知らせ「特別支援教育について」(資料20)には、「「特別支援教育」とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくこととなりました」とあり、発達障害の子どもへの支援に力を入れていることが宣言されていることも記しておきたい。

医療の分野では、「医療法」が改正され、平成25年度からは従来の「4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)」に「精神疾患」が追加されて「5疾病」となった。そうした中で、厚生労働省が「患者調査」により作成した「精神疾患を有する総患者数の推移」(資料21)によれば、精神疾患の患者数は、平成23年度320.1万人、平成26年度392.4万人である。3年ごとのデータとはいえ、平成23年から平成26年にかけて70万人以上の増加であり、今や400万人に迫ろうとしている。ここでも、心理職の必要性が明らかである。

福祉の分野では、厚生労働省の「児童養護施設入所児童等調査」(資料22)によれば、「里親委託児童」は平成20年度3,611人、平成25年度4,534人、「児童養護施設入所児童」は平成20年度31,593人、平成25年度29,979人、「情緒障害児短期治療施設入所児童」は平成20年度1,104人、平成25年度1,235人、「児童自立支援施設入所児童」は平成20年度1,995人、平成25年度1,670人、「乳児院入所児童」は平成20年度3,299人、平成25年度3,147人、「母子生活支援施設入所児童」は平成20年度6,552人、平成25年度6,006人、などとなっている。5年ごとのデータではあるが、児童養護施設等の入所児童はこの5年間で、項目によって増減の変化はありつつも、いずれも高い数値を示している。

また、厚生労働省の「H27年度 児童相談所での児童虐待相談対応件数(速報値)」(資料23)では、相談対応件数が、平成26年度88,931件、平成27年度103,260件となっている。大幅な増加だが、自治体からの聞き取りにより、その「主な増加要因」の一つとして「心理的虐待が増加」が挙げられている。

この分野でも、心理職の重要性が顕れている。

犯罪の分野では、法務省が「罪を犯した人が再び罪を犯さないように指導・支援する取組み」として「再犯防止対策」(資料24)に力を入れていることを指摘しておきたい。

産業の分野について言えば、日本の企業においては、産業構造や経済状況の変化によって生じる競争の激化、職場環境の変化、長時間労働などによる労働者のストレスの問題への

対処（メンタルヘルスケア）は、いまや最重要課題となっている。

そうした中で、平成 26 年に過労死等防止対策推進法が施行され、平成 27 年 12 月からはストレスチェック制度が施行されている。企業におけるメンタルヘルス対策が必須となっている。

このように、多様な社会的動向からして、心理専門職や心理学的素養を持つ人材が求められており、心理職の活躍が期待される領域はきわめて多様かつ広範である。



## 13 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 資料索引

- 資料 1** 跡見学園女子大学 都道府県別志願者数（2017 年度入試結果）（p2）
- 資料 2** 跡見学園女子大学 学部在籍者学年別出身県（2017 年 8 月）（p2）
- 資料 3** 「18 歳人口予測 南関東（都道府県別）2016～2027 年」（p2）  
（リクルート web サイト「リクルート進学総研」マーケットリポート Vol. 37  
2017 年 1 月号「18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、  
地元残留率の動向（南関東版）
- 資料 4** 「私立大学 2016 年度入試～2017 年度入試 地区別志願者動向」（p2）  
（豊島継男事務所調査 2017 年 5 月 2 日）
- 資料 5** 「私立大学 2016 年度入試～2017 年度入試 学部系統別志願者動向」（p3）  
（豊島継男事務所調査 2017 年 5 月 2 日）
- 資料 6** 「主な学部別の志願者・入学者動向（大学）」（p3）  
（日本私立学校振興・共済事業団  
『平成 29 年度 私立大学・短期大学等 入試志願動向』）
- 資料 7** 「私立大学 2016 年度入試～2017 年度入試 学科系統別志願者動向」（p3）  
（豊島継男事務所調査 2017 年 5 月 2 日）
- 資料 8** 「首都圏エリア入試の傾向（学問系統別志願者数）」（p3）  
（リクルート『2017 年度センター・一般入試の傾向と分析』）
- 資料 9** 跡見学園女子大学 2012～2017 年度入試 入学試験結果（学部学科別）（p3）（p4）
- 資料 10** 「首都圏エリア入試の傾向（心理系学科志願者数）」（p3）  
（リクルート『2017 年度センター・一般入試の傾向と分析』）
- 資料 11** 平成 29 年度入学生 初年度学生納付金等調査（競合校との比較）（p4）  
（各大学 HP 公表データ 2017 年 8 月 30 日）
- 資料 12** 跡見学園女子大学 オープンキャンパス来場者数一覧（2015～2017. 8. 20）（p4）
- 資料 13** 跡見学園女子大学 心理学部臨床心理学科パンフレット（p6）
- 資料 14** 「いじめの認知件数・認知率（発生件数・発生率）の推移」（p7）※1
- 資料 15** 「不登校児童生徒数の推移」（p7）※1
- 資料 16** 「学校の管理下・管理下以外における暴力行為発生件数、発生率の推移」（p7）  
※1

- 資料 17** 「児童生徒の自殺の状況」(p7) ※1
- 資料 18** 「都道府県・指定都市における小学生、中学生及び高校生に関する教育相談件数」  
(平成 26 年度) (p7) ※2
- 資料 19** 「都道府県・指定都市における小学生、中学生及び高校生に関する教育相談件数」  
(平成 27 年度) (p7) ※1
- ※1 出典：文部科学省  
平成 27 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（確定値）」  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/29/02/1382696.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/02/1382696.htm))
- ※2 出典：文部科学省  
平成 26 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（確定値）」  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/27/09/1362012.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/09/1362012.htm))
- 資料 20** 特別支援教育について (p7)  
(文部科学省 HP  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/hattatu.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/hattatu.htm))
- 資料 21** 「精神疾患を有する総患者数の推移（疾病別内訳）」(p7)  
(厚生労働省「患者調査」  
[http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokuyokushou\\_gaihokenfukushibu-Kikakuka/0000108755\\_12.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokuyokushou_gaihokenfukushibu-Kikakuka/0000108755_12.pdf))
- 資料 22** 「児童養護施設入所児童等調査結果の概要」(p7)  
(厚生労働省「児童養護施設入所児童等調査」  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/69-19.html>)
- 資料 23** 「児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移」(p7)  
(厚生労働省「H27 年度児童相談所での児童虐待相談対応件数（速報値）」  
[http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/karoushi/16-2/dl/16-2\\_01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/karoushi/16-2/dl/16-2_01.pdf))
- 資料 24** 再犯防止対策 (p7)  
(法務省 HP  
[http://www.moj.go.jp/hisho/seisakuhyouka/hisho04\\_00038.html](http://www.moj.go.jp/hisho/seisakuhyouka/hisho04_00038.html))

## 都道府県別志願者数(2017年度入試)

学部1年次

コード	都道府県名	志願者数		
01	北海道	26	76 (2.4%)	
02	青森県	6		
03	岩手県	7		
04	宮城県	8		
05	秋田県	4		
06	山形県	10		
07	福島県	15		
08	茨城県	95	3.1%	2,851 (91.6%)
09	栃木県	59	1.9%	
10	群馬県	63	2.0%	
11	埼玉県	965	31.0%	
12	千葉県	301	9.7%	
13	東京都	1,292	41.5%	
14	神奈川県	76	2.4%	
15	新潟県	22	92 (3.0%)	
16	富山県	0		
17	石川県	1		
18	福井県	0		
19	山梨県	18		
20	長野県	27		
21	岐阜県	1		
22	静岡県	16		
23	愛知県	7		
24	三重県	2	18 (0.6%)	
25	滋賀県	0		
26	京都府	0		
27	大阪府	5		
28	兵庫県	5		
29	奈良県	6		
30	和歌山県	0		
31	鳥取県	0	24 (0.8%)	
32	島根県	4		
33	岡山県	5		
34	広島県	2		
35	山口県	0		
36	徳島県	2		
37	香川県	2		
38	愛媛県	5		
39	高知県	4		
40	福岡県	8	23 (0.7%)	
41	佐賀県	0		
42	長崎県	1		
43	熊本県	5		
44	大分県	0		
45	宮崎県	1		
46	鹿児島県	3		
47	沖縄県	5		
51	高卒認定等(大検)	24	27 (0.9%)	
52	外国の学校等	2		
53	文部大臣の指定した者	0		
54	認定	0		
55	在外教育施設	1		
56	専修学校の高等課程	0		
計		3,111		

## 学部学生学年別出身県(単位:人)

\* 2017.8.30現在

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
北海道	6	3	0	1	10
青森県	1	1	3	3	8
岩手県	2	2	2	1	7
宮城県	5	3	0	3	11
秋田県	1	4	4	2	11
山形県	4	1	3	1	9
福島県	6	5	10	3	24
茨城県	36	40	31	34	141
栃木県	22	21	17	18	78
群馬県	26	25	26	19	96
埼玉県	493	407	385	401	1686
千葉県	135	126	135	126	522
東京都	333	286	248	238	1105
神奈川県	33	17	24	25	99
新潟県	14	9	5	8	36
富山県	0	3	3	2	8
石川県	0	0	1	1	2
福井県	1	0	0	0	1
山梨県	1	2	0	1	4
長野県	10	5	9	6	30
岐阜県	0	0	0	0	0
静岡県	6	4	5	4	19
愛知県	2	1	1	1	5
三重県	0	1	1	0	2
滋賀県	0	0	0	0	0
京都府	0	1	0	0	1
大阪府	2	0	0	1	3
兵庫県	1	0	1	0	2
奈良県	2	0	0	0	2
和歌山県	0	0	0	0	0
鳥取県	0	1	0	0	1
島根県	3	0	0	1	4
岡山県	1	1	2	0	4
広島県	2	1	3	0	6
山口県	0	0	0	0	0
徳島県	1	0	0	0	1
香川県	1	0	0	0	1
愛媛県	0	0	0	0	0
高知県	0	1	0	0	1
福岡県	4	0	0	0	4
佐賀県	0	0	0	0	0
長崎県	0	0	0	0	0
熊本県	0	2	4	0	6
大分県	0	0	0	1	1
宮崎県	0	2	1	0	3
鹿児島県	2	0	1	0	3
沖縄県	2	1	0	2	5
合計	1158	976	925	903	3962

## 18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版



### 【将来予測 2016～2027年】

#### ▶18歳人口予測 P2～P4

- ・2016年307,864人→2027年292,869人(14,995人減少)。
- ・減少率が高いのは、千葉県(2016年比較6.5%)。
- ・減少数が多いのは、神奈川県(80,472人→76,569人、3,903人減少)。

### 【経過推移 2006～2015年】

#### ▶進学者数・進学率・残留率(現役)の推移 P5～P8

##### 進学者数

- ・大学は、2006年131,832人→2015年157,421人(25,589人増加)と、19.4%増加。
- ・短期大学は、2006年16,308人→2015年10,419人(5,889人減少)と、36.1%減少。
- ・専門学校は、2006年47,347人→2015年41,657人(5,690人減少)と、12.0%減少。

##### 進学率

- ・大学は、2006年47.9%→2015年57.7% (9.8ポイント上昇)。
- ・短期大学は、2006年5.9%→2015年3.8% (2.1ポイント低下)。
- ・専門学校は、2006年17.2%→2015年15.3% (1.9ポイント低下)

##### 残留率

- ・大学は、2006年47.6%→2015年47.8% (0.2ポイント上昇)。
- ・短期大学は、2006年57.9%→2015年61.6% (3.7ポイント上昇)。

#### ▶南関東エリア概要(都県別) P9～P10

※分析にあたって

- ① 18歳人口概算は、文部科学省学校基本調査より、以下の通り定義して算出した。(全体：平成28年度速報値、男女：平成27年度確報値)
  - ・18歳人口＝3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数
  - ・中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者 すべて含む
- ② 表内の「年度」に属する18歳とは、その年の4月現在の高校3年生(その年度に卒業を迎える高校3年生)を指す。
- ③ 表内の「割合」とは、グラフ開始年度の値を100とおいた際の増減を示す。
- ④ 進学率とは、進学者数(大学・短期大学・専門学校※1)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)で算出した。
- ⑤ 残留率とは、自県内の入学者数(大学・短大)のうち自県内の高校出身者数の割合を算出した。(浪人含む、ここでは進学者と表記)。
- ⑥ 図表で利用している百分率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。
- ⑦ 各分析の該当期間については、速報段階では数値が公表されないものもあるため、分析によっては期間が一致しない場合がある。

※1 専門学校＝専修学校専門課程

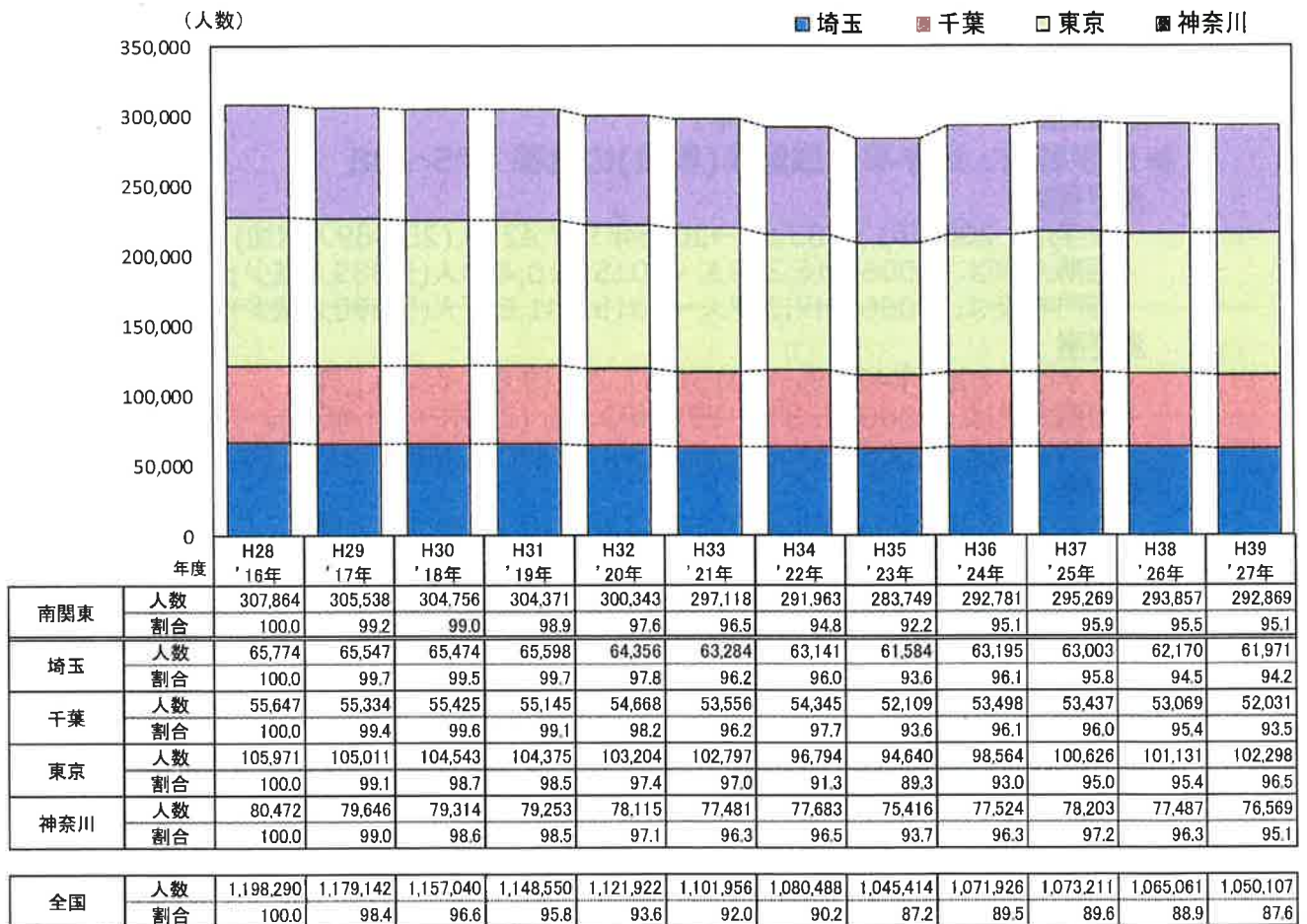
【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研  
http://souken.shingakunet.com/

# 18歳人口予測(全体：南関東：2016～2027年)

## ■2016年307,864人→2027年292,869人(14,995人減少)

- ・南関東エリアは12年間で14,995人・4.9%減少、全国の減少率12.4%を7.5ポイント下回る。
- ・2023年に283,749人まで減少した後、2027年にかけてやや持ち直す見込み。
- ・減少率が高いのは、千葉県(2016年比較6.5%)。
- ・減少数が多いのは、神奈川県(80,472人→76,569人、3,903人減少)。



- ① 18歳人口概算は、文部科学省学校基本調査より、以下の通り定義して算出した。(全体：平成28年度速報値)  
 ・18歳人口=3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数  
 ・中学校卒業生数=高校生+フリーター+就職者 すべて含む
- ② 表内の「年度」に属する18歳とは、その年の4月現在の高校3年生(その年度に卒業を迎える高校3年生)を指す。
- ③ 表内の「割合」とは、グラフ開始年度の値を100とおいた際の増減を示す。

〈第16表〉私立大学 地区別志願者増減表(男女別・女子大含む)

地区	男子					女子				
	17年度	16年度	増減	指数	17年度	16年度	増減	指数	17年度	16年度
北海道	19,844	19,863	-19	99.9	13,735	14,080	-345	97.5	40.9	41.5
東北	20,496	19,183	1,313	106.8	14,091	13,796	295	102.1	40.7	41.8
北関東	5,077	5,782	-705	87.8	4,001	4,679	-678	85.5	44.1	44.7
南関東	326,122	312,076	14,046	104.5	150,327	144,544	5,783	104.0	31.6	31.7
甲信越	3,255	3,226	29	100.9	2,903	2,962	-59	98.0	47.1	47.9
小計	334,454	321,084	13,370	104.2	157,231	152,185	5,046	103.3	32.0	32.2
東京	701,768	648,777	52,991	108.2	480,271	447,715	32,556	107.3	40.6	40.8
北陸	14,735	13,348	1,387	110.4	4,951	4,517	434	109.6	25.1	25.3
東海	138,982	127,919	11,063	108.6	86,076	78,506	7,570	109.6	38.2	38.0
近畿	406,565	370,735	35,830	109.7	269,605	249,264	20,341	108.2	39.9	40.2
中国・四国	31,362	29,497	1,865	106.3	19,399	18,190	1,209	106.6	38.2	38.1
九州	65,203	60,460	4,743	107.8	46,353	47,171	-818	98.3	41.6	43.8
私立大・計	1,733,409	1,610,866	122,543	107.6	1,091,712	1,025,424	66,288	106.5	38.6	38.9

17.5.2現在

(豊島継男事務所調査)

〈第20表〉私立大学 学部系統別志願者増減表(男女別・女子大含む)

学部系統	男子						女子						
	17年度	16年度	増減	指数	構成比		17年度	16年度	増減	指数	構成比		
法・政治	161,172	154,358	6,814	104.4	9.3		71,895	68,086	3,809	105.6	6.6	30.8	30.6
経済・経営・商	437,034	386,832	50,202	113.0	25.2		163,498	146,217	17,281	111.8	15.0	27.2	27.4
総合政策・政策科学	36,508	33,975	2,533	107.5	2.1		21,952	18,981	2,971	115.7	2.0	37.6	35.8
社会・社会福祉 環境	82,288	68,789	13,499	119.6	4.7		88,102	78,631	9,471	112.0	8.1	51.7	53.3
	20,491	17,970	2,521	114.0	1.2		10,922	9,031	1,891	120.9	1.0	34.8	33.4
国際・外国語	58,275	51,576	6,699	113.0	3.4		107,372	93,929	13,443	114.3	9.8	64.8	64.6
情報	37,304	32,711	4,593	114.0	2.2		18,784	16,285	2,499	115.3	1.7	33.5	33.2
文・人文・教養・心理 理	137,363	125,562	11,801	109.4	7.9		208,500	198,730	9,770	104.9	19.1	60.3	61.3
	75,741	76,792	-1,051	98.6	4.4		25,302	26,254	-952	96.4	2.3	25.0	25.5
理工・工	461,391	438,291	23,100	105.3	26.6		80,967	76,137	4,830	106.3	7.4	14.9	14.8
農・生命科学	57,588	54,717	2,871	105.2	3.3		39,235	36,269	2,966	108.2	3.6	40.5	39.9
医	31,414	32,909	-1,495	95.5	1.8		17,403	17,677	-274	98.4	1.6	35.6	34.9
看護・医療技術	25,071	26,989	-1,918	92.9	1.4		59,781	58,598	1,183	102.0	5.5	70.5	68.5
歯	1,949	1,866	83	104.4	0.1		1,047	1,184	-137	88.4	0.1	34.9	38.8
薬	25,134	26,485	-1,351	94.9	1.4		34,094	35,655	-1,561	95.6	3.1	57.6	57.4
生活科学・家政	8,126	8,110	16	100.2	0.5		64,910	68,137	-3,227	95.3	5.9	88.9	89.4
教員養成・教育	34,179	35,395	-1,216	96.6	2.0		43,496	43,814	-318	99.3	4.0	56.0	55.3
芸術・デザイン	9,815	8,621	1,194	113.8	0.6		18,622	18,217	405	102.2	1.7	65.5	67.9
スポーツ	26,059	23,798	2,261	109.5	1.5		11,627	10,366	1,261	112.2	1.1	30.9	30.3
総合科学	6,507	5,120	1,387	127.1	0.4		4,203	3,226	977	130.3	0.4	39.2	38.7
私立大・計	1,733,409	1,610,866	122,543	107.6	100.0		1,091,712	1,025,424	66,288	106.5	100.0	38.6	38.9

17.5.2現在

(豊島継男事務所調査)



## 5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

区 分 学 部 名	集計学部数			入学定員(人)			志願者(人)			入学者(人)			入学定員充足率(%)		
	28年度	29年度	増減	28年度	29年度	増減	28年度	29年度	増減	28年度	29年度	増減	28年度	29年度	増減
医学	30	31	1	3,827	3,998	171	112,082	114,359	2,277	3,865	4,025	160	100.99	100.68	△ 0.31
歯学	17	17	0	2,063	2,063	0	9,656	9,279	△ 377	1,768	1,687	△ 81	85.70	81.77	△ 3.93
薬学	57	57	0	11,564	11,517	△ 47	105,573	101,109	△ 4,464	11,420	11,482	62	98.75	99.70	0.95
保健系	198	209	11	30,330	32,850	2,520	172,038	179,962	7,924	31,585	33,561	1,976	104.14	102.16	△ 1.98
看護学部	81	88	7	7,427	8,112	685	44,462	48,763	4,301	7,997	8,709	712	107.67	107.36	△ 0.31
保健医療学部	30	32	2	5,085	5,795	710	26,057	25,621	△ 436	5,252	5,967	715	103.28	102.97	△ 0.31
リハビリテーション学部	10	10	0	915	915	0	4,239	3,812	△ 427	971	889	△ 82	106.12	97.16	△ 8.96
医療保健学部	6	8	2	1,650	1,810	160	9,130	10,424	1,294	1,603	1,759	156	97.15	97.18	0.03
保健科学部	6	6	0	1,165	1,315	150	5,487	6,558	1,071	1,280	1,325	45	109.87	100.76	△ 9.11
栄養学部	5	4	△ 1	897	897	0	4,974	4,521	△ 453	884	877	△ 7	98.55	97.77	△ 0.78
医療学部	4	4	0	420	420	0	655	510	△ 145	344	314	△ 30	81.90	74.76	△ 7.14
医療福祉学部	4	4	0	996	1,096	100	2,386	2,461	75	843	853	10	84.64	77.83	△ 6.81
医療技術学部	3	3	0	1,580	1,865	285	10,712	12,034	1,322	1,685	2,045	360	106.65	109.65	3.00
看護栄養学部	3	3	0	437	437	0	1,972	1,912	△ 60	499	455	△ 44	114.19	104.12	△ 10.07
看護福祉学部	3	3	0	630	600	△ 30	2,823	2,896	73	586	608	22	93.02	101.33	8.31
医療科学部	3	3	0	1,040	1,040	0	6,107	5,713	△ 394	1,050	1,101	51	100.96	105.87	4.91
保健福祉学部	3	3	0	655	695	40	1,901	1,670	△ 231	645	695	50	98.47	100.00	1.53
ヒューマンケア学部	3	3	0	617	617	0	4,935	5,144	209	700	688	△ 12	113.45	111.51	△ 1.94
その他	34	35	1	6,816	7,236	420	46,198	47,923	1,725	7,246	7,276	30	106.31	100.55	△ 5.76
理・工学系	146	149	3	59,108	61,579	2,471	664,238	694,118	29,880	62,536	64,685	2,149	105.80	105.04	△ 0.76
工学部	52	51	△ 1	24,247	23,934	△ 313	212,771	212,913	142	25,430	25,183	△ 247	104.88	105.22	0.34
理工学部	29	30	1	17,461	18,545	1,084	251,243	258,262	7,019	18,389	19,333	944	105.31	104.25	△ 1.06
理学部	13	13	0	4,091	4,316	225	46,782	43,104	△ 3,678	4,469	4,429	△ 40	109.24	102.62	△ 6.62
生命科学部	5	7	2	1,201	1,726	525	17,071	24,133	7,062	1,234	1,731	497	102.75	100.29	△ 2.46
情報科学部	5	4	△ 1	1,166	1,046	△ 120	19,271	19,740	469	1,256	1,139	△ 117	107.72	108.89	1.17
デザイン工学部	4	4	0	907	1,007	100	13,038	13,329	291	1,090	1,128	38	120.18	112.02	△ 8.16
その他	38	40	2	10,035	11,005	970	104,062	122,637	18,575	10,668	11,742	1,074	106.31	106.70	0.39
農学系	18	18	0	7,515	7,741	226	83,540	85,357	1,817	8,416	8,174	△ 242	111.99	105.59	△ 6.40
農学部	7	7	0	2,895	3,021	126	45,751	49,596	3,845	3,302	3,088	△ 214	114.06	102.22	△ 11.84
獣医学部	3	3	0	740	770	30	10,513	10,315	△ 198	846	901	55	114.32	117.01	2.69
その他	8	8	0	3,880	3,950	70	27,276	25,446	△ 1,830	4,268	4,185	△ 83	110.00	105.95	△ 4.05
人文科学系	240	240	0	69,619	69,921	302	525,219	556,791	31,572	73,092	73,806	714	104.99	105.56	0.57
文学部	86	86	0	34,289	34,525	236	287,498	305,973	18,475	37,212	37,128	△ 84	108.52	107.54	△ 0.98
人文学部	32	32	0	7,330	7,115	△ 215	36,427	37,757	1,330	7,021	7,038	17	95.78	98.92	3.14
外国語学部	28	28	0	9,906	9,991	85	82,533	82,802	269	10,611	10,808	197	107.12	108.18	1.06
心理学部	14	14	0	2,195	2,185	△ 10	15,051	17,324	2,273	2,198	2,405	207	100.14	110.07	9.93
人間学部	14	13	△ 1	2,910	2,810	△ 100	8,654	8,616	△ 38	2,580	2,467	△ 113	88.66	87.79	△ 0.87
国際文化学部	8	8	0	1,594	1,549	△ 45	8,734	10,910	2,176	1,500	1,607	107	94.10	103.74	9.64
神学部	6	6	0	183	180	△ 3	798	1,101	303	200	186	△ 14	109.29	103.33	△ 5.96
仏教学部	5	5	0	497	487	△ 10	1,965	2,216	251	508	496	△ 12	102.21	101.85	△ 0.36
グローバル・コミュニケーション学部	5	5	0	850	880	30	4,503	4,537	34	876	958	82	103.06	108.86	5.80
人間関係学部	5	5	0	1,070	1,080	10	2,888	3,450	562	967	1,065	98	90.37	98.61	8.24
現代文化学部	4	4	0	680	730	50	1,570	1,711	141	778	804	26	114.41	110.14	△ 4.27
文芸学部	3	3	0	1,180	1,240	60	18,508	21,079	2,571	1,373	1,430	57	116.36	115.32	△ 1.04
その他	30	31	1	6,935	7,149	214	56,090	59,315	3,225	7,268	7,414	146	104.80	103.71	△ 1.09
社会科学系	510	515	5	165,013	168,025	3,012	1,264,475	1,421,465	156,990	174,262	179,664	5,402	105.61	106.93	1.32
経済学部	94	92	△ 2	39,505	39,406	△ 99	325,309	374,884	49,575	42,338	43,079	741	107.17	109.32	2.15
経営学部	82	82	0	25,244	25,796	552	212,639	239,665	27,026	26,598	27,888	1,290	105.36	108.11	2.75
法学部	80	80	0	30,631	30,725	94	258,565	270,949	12,384	33,802	32,967	△ 835	110.35	107.30	△ 3.05
商学部	31	31	0	14,561	14,529	△ 32	117,010	124,724	7,714	15,344	15,363	19	105.38	105.74	0.36
社会福祉学部	23	22	△ 1	4,644	4,424	△ 220	10,972	12,079	1,107	4,079	4,096	17	87.83	92.59	4.76
社会学部	21	21	0	7,654	7,733	79	75,902	84,765	8,863	8,195	8,531	336	107.07	110.32	3.25
人間社会学部	13	13	0	3,235	3,260	25	12,906	13,840	934	3,175	3,233	58	98.15	99.17	1.02
総合政策学部	11	13	2	2,780	3,210	430	24,332	27,128	2,796	2,894	3,235	341	104.10	100.78	△ 3.32
現代社会学部	11	12	1	2,295	2,745	450	11,771	23,219	11,448	2,177	2,736	559	94.86	99.67	4.81

〈第21表〉私立大学 学科系統別志願者増減表(男女別・女子大含む)

学部系統	学科系統	男子						女子					
		17年度		16年度		増減	指数	17年度		16年度		増減	指数
		17年度	16年度	17年度	16年度	増減	指数	17年度	16年度	17年度	16年度	増減	指数
法・政治	法	125,301	119,969	5,332	104.4	56,454	53,728	2,726	105.1	31.1	30.9		
	政治	27,899	25,707	2,192	108.5	12,157	10,781	1,376	112.8	30.4	29.5		
経済・経営・商	経済	201,937	180,723	21,214	111.7	56,180	50,810	5,370	110.6	21.8	21.9		
	経営・商・会計 経営情報	222,118	194,909	27,209	114.0	103,333	92,174	11,159	112.1	31.8	32.1		
社会・社会福祉	社会	5,373	5,318	55	101.0	1,140	1,053	87	108.3	17.5	16.5		
	社会福祉	57,214	45,166	12,048	126.7	53,024	44,769	8,255	118.4	48.1	49.8		
	社会福祉 観光	11,896	11,787	109	100.9	14,300	14,524	-224	98.5	54.6	55.2		
	マスコミ	4,341	3,683	658	117.9	9,550	8,181	1,369	116.7	68.7	69.0		
国際・外国語	国際	8,772	8,064	708	108.8	11,149	11,087	62	100.6	56.0	57.9		
	外国語	36,441	30,267	6,174	120.4	65,971	54,951	11,020	120.1	64.4	64.5		
文・人文・ 教養・心理	外国語・国文	21,834	21,309	525	102.5	41,401	38,978	2,423	106.2	65.5	64.7		
	英語・英文	18,281	16,536	1,745	110.6	37,694	35,230	2,464	107.0	67.3	68.1		
	他の外国語・外国文学	16,071	15,836	235	101.5	36,661	38,031	-1,370	96.4	69.5	70.6		
	歴史・地理	3,983	4,072	-89	97.8	7,631	8,321	-690	91.7	65.7	67.1		
	哲学・宗教	28,655	26,510	2,145	108.1	22,148	21,385	763	103.6	43.6	44.6		
	文化	8,896	7,245	1,651	122.8	6,796	5,359	1,437	126.8	43.3	42.5		
人間科学	心理	18,529	16,179	2,350	114.5	29,076	27,252	1,824	106.7	61.1	62.7		
	人間科学	20,015	17,387	2,628	115.1	38,788	35,441	3,347	109.4	66.0	67.1		
		9,081	8,738	343	103.9	11,416	10,679	737	106.9	55.7	55.0		

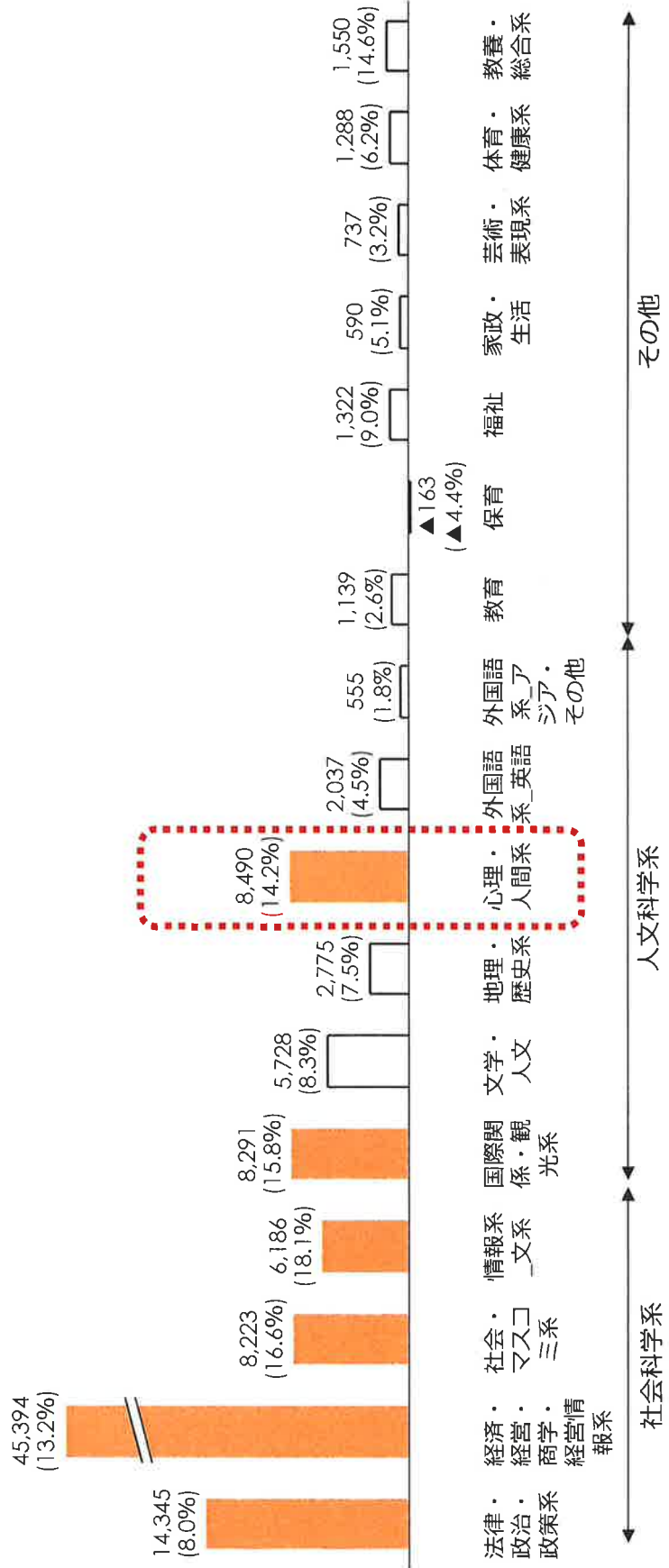
# 首都圏エリア入試の傾向(文系)



## 社会科学系と国際、心理で大きく志願者増

文系の志願者数を学問系統別に見ると、社会科学系学部が大きく志願者を伸ばした。人文科学系では、国際関係・観光系、心理・人間系は志願者を大きく伸ばした。

	志願者数			対前年 志願者増減	
	2015年度	2016年度	2017年度	数 (人)	率 (%)
文系	964,376	1,028,536	1,137,023	108,487	10.5
一般	661,153	706,938	783,136	76,198	10.8
センター	303,223	321,598	353,887	32,289	10.0



## 2012～2017年度入試 入学試験結果(学部学科別)

## 学部1年次

学部	学科	入試年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	手続者数	入学辞退者数	入学者数	入学定員比率	
文	人文	2012	180	436	421	379	231	25	206	114.4%	
		2013	180	488	472	419	243	28	215	119.4%	
		2014	180	447	431	412	231	37	194	107.8%	
		2015	160	458	435	424	198	34	164	102.5%	
		2016	160	415	400	385	184	45	139	86.9%	
	2017	160	536	528	458	227	30	197	123.1%		
	現代文化表現	2012	90	283	274	184	132	14	118	131.1%	
		2013	90	280	271	214	139	11	128	142.2%	
		2014	90	240	232	209	123	18	105	116.7%	
		2015	120	294	279	261	141	20	121	100.8%	
		2016	120	247	236	226	136	10	126	105.0%	
	2017	120	337	335	240	154	14	140	116.7%		
	コミュニケーション文化	2012	120	268	261	241	134	17	117	97.5%	
		2013	120	301	293	264	141	22	119	99.2%	
		2014	120	236	228	214	116	18	98	81.7%	
		2015	110	319	301	286	146	19	127	115.5%	
		2016	110	272	260	249	124	16	108	98.2%	
	2017	110	346	340	281	145	16	129	117.3%		
	臨床心理	2012	120	291	280	204	145	8	137	114.2%	
		2013	120	379	365	216	150	11	139	115.8%	
		2014	120	255	246	224	133	17	116	96.7%	
		2015	120	311	299	286	158	23	135	112.5%	
		2016	120	328	312	290	158	23	135	112.5%	
	2017	120	395	384	306	167	21	146	121.7%		
	学部計	2012	510	1,278	1,236	1,008	642	64	578	113.3%	
2013		510	1,448	1,401	1,113	673	72	601	117.8%		
2014		510	1,178	1,137	1,059	603	90	513	100.6%		
2015		510	1,382	1,314	1,257	643	96	547	107.3%		
2016		510	1,262	1,208	1,150	602	94	508	99.6%		
2017	510	1,614	1,587	1,285	693	81	612	120.0%			
マネジメント	マネジメント	2012	210	465	451	421	250	25	225	107.1%	
		2013	210	619	596	527	302	38	264	125.7%	
		2014	210	549	534	494	298	48	250	119.0%	
		2015	180	429	416	400	220	40	180	100.0%	
		2016	180	459	443	429	220	27	193	107.2%	
	2017	180	626	618	441	243	29	214	118.9%		
	観光マネジメント	2012	90	226	219	182	123	13	110	122.2%	
		2013	90	287	284	205	133	12	121	134.4%	
		2014	90	304	296	202	126	12	114	126.7%	
		2015	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		2016	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2017	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	生活環境マネジメント	2012	60	116	114	104	76	4	72	120.0%	
		2013	60	107	104	99	70	5	65	108.3%	
		2014	60	105	103	97	66	7	59	98.3%	
		2015	80	182	176	163	106	10	96	120.0%	
		2016	80	113	108	103	66	6	60	75.0%	
	2017	80	223	220	169	101	10	91	113.8%		
	学部計	2012	360	807	784	707	449	42	407	113.1%	
		2013	360	1,013	984	831	505	55	450	125.0%	
		2014	360	958	933	793	490	67	423	117.5%	
		2015	260	611	592	563	326	50	276	106.2%	
		2016	260	572	551	532	286	33	253	97.3%	
	2017	260	849	838	610	344	39	305	117.3%		
	観光 コミュニ ティ	観光デザイン	2012	-	-	-	-	-	-	-	-
2013			-	-	-	-	-	-	-	-	
2014			-	-	-	-	-	-	-	-	
2015			120	323	299	260	177	29	148	123.3%	
2016			120	408	396	345	179	20	159	132.5%	
2017		120	451	443	292	179	12	167	139.2%		
コミュニティデザイン		2012	-	-	-	-	-	-	-	-	
		2013	-	-	-	-	-	-	-	-	
		2014	-	-	-	-	-	-	-	-	
		2015	80	42	39	39	22	2	20	25.0%	
		2016	80	102	100	100	51	6	45	56.3%	
2017		80	197	197	179	91	14	77	96.3%		
学部計		2012	-	-	-	-	-	-	-	-	
		2013	-	-	-	-	-	-	-	-	
		2014	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2015	200	365	338	299	199	31	168	84.0%		
	2016	200	510	496	445	230	26	204	102.0%		
2017	200	648	640	471	270	26	244	122.0%			
全学部計	2012	870	2,085	2,020	1,715	1,091	106	985	113.2%		
	2013	870	2,461	2,385	1,944	1,178	127	1,051	120.8%		
	2014	870	2,136	2,070	1,852	1,093	157	936	107.6%		
	2015	970	2,358	2,244	2,119	1,168	177	991	102.2%		
	2016	970	2,344	2,255	2,127	1,118	153	965	99.5%		
	2017	970	3,111	3,065	2,366	1,307	146	1,161	119.7%		

# 心理・人間系 心理

系統別詳細分析

大学名	学部	学系・コース・専攻	新増設・改組 (名称変更有)	志願者数		対前年増減		偏差値 17卒	
				2015年度	2016年度	2017年度	数(人)		率(%)
立教大学	現代心理学部	心理学科		1,923	1,775	1,744	▲ 31	▲ 1.7	62.5
明治大学	文学部	心理社会学科 臨床心理専攻		1,184	1,327	1,229	▲ 98	▲ 7.4	62.5
明治大学	文学部	心理社会学科 現代社会専攻		1,013	1,035	878	▲ 157	▲ 15.2	62.5
上智大学	総合人間科学部	心理学科		729	516	557	41	7.9	62.5
法政大学	文学部	心理学科		1,638	1,578	2,067	489	31.0	60.0
青山学院大学	教養人間科学部	心理学科		1,884	1,544	1,648	104	6.7	60.0
中央大学	文学部	人文社会学科 心理学専攻		1,060	984	1,182	198	20.1	57.5
東洋大学	社会学部	社会心理学科		2,107	1,951	2,407	456	23.4	55.0
明治学院大学	心理学部	心理学科		2,012	2,067	1,956	▲ 111	▲ 5.4	55.0
成城大学	社会イノベーション学部	心理社会学科		1,688	2,212	1,837	▲ 375	▲ 17.0	55.0
法政大学	現代福祉学部	臨床心理学科		1,049	1,492	1,810	318	21.3	55.0
学習院大学	文学部	心理学科		566	748	967	219	29.3	55.0
日本大学	人間科学部	心理学科		1,444	1,383	2,474	1,091	78.9	52.5
専修大学	文学部	心理学科		973	1,332	1,740	408	30.6	52.5
駒澤大学	文学部	心理学科		1,418	1,343	1,419	76	5.7	52.5
東京女子大学	現代教養学部	人間科学科 心理学	2009	769	825	765	▲ 60	▲ 7.3	52.5
昭和女子大学	人間社会学部	心理学科		743	921	1,061	140	15.2	50.0
日本女子大学	人間社会学部	心理学科		574	752	733	▲ 19	▲ 2.5	50.0
立正大学	心理学部	臨床心理学科		1,218	1,215	1,349	134	11.0	47.5
立正大学	心理学部	対人・社会心理学科		963	1,010	1,288	278	27.5	47.5
文教大学	人間科学部	臨床心理学科		668	982	974	▲ 8	▲ 0.8	47.5
文教大学	人間科学部	心理学科		816	1,105	1,195	90	8.1	45.0
東海大学	文学部	心理・社会学科		570	674	909	235	34.9	45.0
大妻女子大学	人間関係学部	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻		342	324	313	▲ 11	▲ 3.4	40.0
白百合女子大学	文学部	児童文化学科 発達心理学専攻		298	-	-	-	-	-
白百合女子大学	人間総合学部	発達心理学科	2016	-	273	235	▲ 38	▲ 13.9	40.0
大正大学	人間学部	臨床心理学科 臨床心理学コース	2016	537	756	-	-	-	-
大正大学	心理社会学部	臨床心理学科	2017	-	-	1,048	-	-	38.8
東洋英和女学院大学	人間科学部	人間科学科		487	436	494	58	13.3	35.5
和光大学	現代人間学部	心理教育学科 心理学専修	2015	140	176	172	▲ 4	▲ 2.3	35.0
聖学院大学	人間福祉学部	こども心理学科		39	34	30	▲ 4	▲ 11.8	BF
合計				28,852	30,770	34,481	3,711	12.1	

■ 2017年度の志願者は34,481人となった

■ 対前年でみると、対象28学科・専攻中16学科・専攻で増加となり、志願者は+3,711人(+12.1%)であった

### 志願者UP数(人数)TOP3

- 1位 日本大学/文理学部/心理学科 1,091人
- 2位 法政大学/文学部/心理学科 489人
- 3位 東洋大学/社会学部/社会心理学科 456人

### 志願者UP数(率)TOP3

- 1位 日本大学/文理学部/心理学科 78.9%
- 2位 東海大学/文学部/心理・社会学科 34.9%
- 3位 法政大学/文学部/心理学科 31.0%

78.9%  
34.9%  
31.0%